

# バリアフリー教室を開催！



## バリアフリー教室とは？

沖縄総合事務局では、高齢者や障害のある方が社会で安心して公共交通機関等を利用し、自立した社会生活を送ることができる環境づくりの一環として駅や車両といったハード面の整備を促進するとともに、国民一人ひとりがバリアフリーへの理解を深め、快く手助けをできる「こころのバリアフリー」社会の実現を目指した施策を行います。

運輸部では、高齢者や障害のある方の疑似体験・介助体験をおして障害のある方に対する偏見や差別、無関心など意識上のバリアをなくし、「こころのバリアフリー」への理解を深めていただくため、毎年「バリアフリー教室」を開催しております。



座学の様子

## 沖縄美ら海水族館でバリアフリー教室を開催

令和7年12月19日、国営沖縄記念公園（海洋博公園）沖縄美ら海水族館でバリアフリー教室を開催しました。海洋博公園で働く職員33名を対象に座学と体験学習を実施しました。座学講師のNPO法人バリアフリーネットワークフォーカ会議代表 親川修ちかかわりゅうさんは「困りごとは個人によって異なるため、障害特性の理解が必要。最大のポイントは全員に同じ支援を提供するという平等ではなく、必要に応じて支援量を変える公平という考えを持ってほしい。個人の困りごとの違いを考慮しそれぞれに公平な機会が提供されることが重要」、「都市空間や交通機関、建物などは、障害者を意識したつくりで改善されてきているが、災害が起きた場合、障害者の方々は健常者と同じように避難できるのだろうか。障害のある方を安全に避難させる逃げるバリアフリーの整備が必要」と話しました。



座学の様子(講師:親川修さん)

## 体験学習について

体験学習では、視覚障害者体験・車いす体験・高齢者体験を実施しました。視覚障害者体験では、視覚障害者桐原好恵きりばら ともえさんから「まちで視覚障害者がその場でぐるぐる回っているときは方向を見失っている状況。その場合は困っているので、やさしく声をかけてほしい。自然と声をかけ、手を差し伸べることができるようにすることが大事」と話がありました。参加者からは「アイマスクを装着して白杖を使い歩行した際、行きたい場所に進めているか不安に感じた。介助者の声かけがわかりやすいほど安心感があると感じた」、「地面の凹凸があると、白杖が引っかかってしまう。いざ体験してみないとわからないことが多い」、「目が見えない感



視覚障害者体験の様子(桐原好恵さんと盲導犬グリ)

# 沖縄美ら海水族館で

覚が全くなかったため、実際に体験できたことで理解が深まった」などの意見がありました。

車いす体験では、参加者から「園内は階段や長い坂が多いため、案内するときは距離よりも進みやすい道順を優先して案内を心がけたいと思った」、「普段はあまり気にならない地面の凹凸や小石に引っかかったので、日ごろから小石を取り除く等の気配りが必要だと感じた」などの意見がありました。

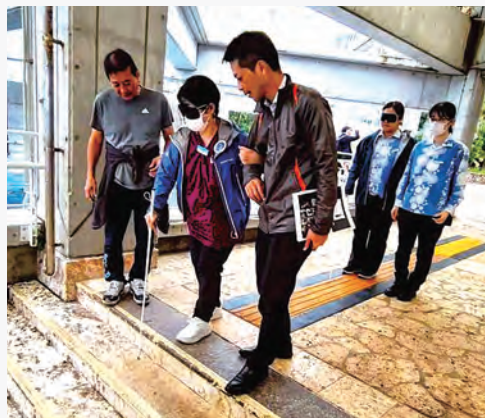
高齢者体験では、参加者から「白内障体験だけでなく、難聴体験も同時に実施したので、耳まで聞こえにくいと怖かった」、「階段の上り下りをするだけで大変だと感じた。手すりがあるだけでも大変助かることを実感した」などの意見がありました。

## バリアフリー教室を終えて

バリアフリー教室全体を通して、参加者から「沖縄美ら海水族館は、万人に公平に楽しんでもらえるように、利用者はもちろん介助者の気持ちにも寄り添い、安心して来園できる水族館を目指す責任があると感じた」、「災害避難経路、多言語対応についてもっと考えていかなければならないと感じた。逃げるバリアフリーというキーワードについて気づき、痛感した」などの意見がありました。

## バリアフリー推進について

バリアフリー教室開催をとおして、参加者のこころのバリアフリー推進に寄与できたと実感できました。これからも沖縄総合事務局ではこころのバリアフリーを推進するためバリアフリー教室を開催していきます。



視覚障害者体験の様子



視覚障害者体験の様子



高齢者体験の様子



車いす体験の様子



車いす体験の様子

▼お問合せ先  
運輸部 企画室  
2098-866-1812